



片柳中学校だより

片 柳

第5号 令和8年7月17日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

時空を超え、人を動かす魔法

校長 佐久間 貴宏

先日、ある番組で古い日記や手紙を読み解く場面が紹介されていました。時代を越えて残された文字には、書いた人の思いや願いが刻まれ、画面越しにも当時の息遣いが伝わってきました。「文字や言葉は、思いを他者や未来へ届ける記録である。正に神秘であり、魔法のようである。」という言葉が心に残り、文字の力を改めて考える機会となりました。

文字や言葉には、読む人の心に瞬時に情景を呼び起こす力があります。例えば、「満天の星空」「山頂から望む景色」といった表現を目にすると、私たちはそれぞれの生活体験に根ざした光景を自然に思い浮かべます。文字は、体験や感情を呼び戻し、心を揺り動かす力を持っています。こうした文字や言葉の力は、本校が育成を目指す資質・能力の一つである「言語能力」の根幹です。自分の考えを整理し、他者と協働し、学びを深めるための基盤として、文字や言葉を丁寧に扱う姿勢を大切にしてもらいたいと考えています。

世界では、サッカーワールドカップで熱戦が繰り広げられています。選手たちの技術や体力はもちろん、スタジアムに響く声援が選手を支え、国を勇気づけています。応援の言葉が試合の流れを変えることさえあり、言葉が人の心を動かすことを改めて感じさせられます。

さて、終業式を終え、いよいよ夏休みに入ります。その節目に、現代社会における文字や言葉の使われ方にも触れておきたいと思います。SNSの普及により、世界中と瞬時につながる便利さが広がる一方、ネットスラングや辛辣な表現、相手の思いを想像しない発言、不適切な投稿が散見されます。匿名性や即時性の高い環境では、文字や言葉が持つ本来の力が軽視され、他者を傷つける表現が世界的な問題となっています。こうした状況は、私たちが「言葉の扱い方を見直す」大切な機会でもあります。だからこそ、夏休みには、文字や言葉の本来の豊かさに触れる時間を意識的に持ってほしいと思います。

読書は、他者の思いや文化に触れ、文字や言葉の力を実感するものとなります。時間や場所を越えて著者の思いに触れる体験は、SNSの即時性とは異なる深い学びをもたらします。多くの文字に出会い、自分の世界を広げてほしいと思います。また、日記を書いたり、感じたことを記録したりすることも、

言葉の力を育てる大切な営みです。自分の思いを文字にすることで心の整理が進み、次の一步を踏み出す力になります。文字は、未来の自分への確かな贈り物となります。

夏休みが、生徒の皆さんにとって豊かな時間となり、文字や言葉を通して自分自身の成長につながることを願っています。

言語能力



- たくさんの言葉や表現を知り、状況や相手に合った言葉を使うことで、自分の気持ちや考えをはっきり伝えたり、相手の話を正しく理解したりすることができる。
- 文章や会話の要点をとらえ、簡潔に自分の言葉でまとめることができる。
- 文章や相手の言葉の内容や意図を的確に理解することができる。

片柳中学校で育成を目指す資質・能力の一つ「言語能力」